

# 表現の豊かさを味わわせるための韻文指導の二方途 — 俳句の大意をとらえる授業 —

福岡県春日市立春日西中学校 萩尾 徹子

## 一 はじめに

社会が多様に変化をしている中、必要なきに、必要な場で、目的になかった文章を、適切に書く能力を身に付けさせることが国語科の今日的課題といえる。この能力を身に付けさせるためには、論理的文章を教材として、「書く」能力を育成することも大切である。しかし一方では、豊かな文章表現力を身に付けるために、文学的文章を教材として「読み」と関連させた指導も必要となる。そこで本単元では、韻文を教材とし、表現を味わわせるとともに、豊かな文章表現力を身に付けることをねらいとした。

## 二 単元構成

- (1) 単元名 表現の豊かさ
- (2) 単元のねらい  
本単元では俳句の特徴を理解させるとともに、俳句という凝縮された言葉から表現の豊

かさを味わわせることをねらいとする。学習内容としては、俳句の基礎知識（リズム、季語、句切れ、切れ字、表現技法）、韻文（短歌、俳句）の鑑賞文の書き方、俳句の創作の仕方、俳句の推敲の仕方がある。これらの学習内容を通して、様々な表現の仕方を学ばせる。ここでは、生徒に俳句の大意のとらえ方を調べさせる授業を紹介する。

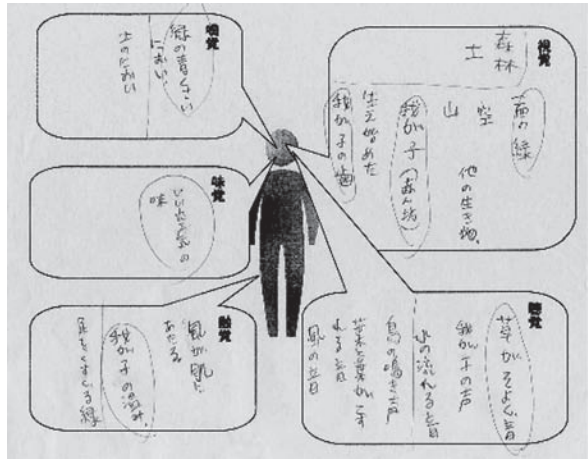
- (3) 単元計画 (全9時間)
    - ① 「俳句」について調べる。(1時間)
    - ② 教科書を読み、俳句の鑑賞文の書き方を調べる。(2時間)
    - ③ 教科書以外の俳句や短歌を使用し、大意のとらえ方を調べる。(1時間)
    - ④ 俳句の鑑賞文を書く。(2時間)
    - ⑤ 俳句を作り、推敲する。(3時間)
- 三 大意のとらえ方を身につける授業
- まず、鑑賞文を書く際、大意のとらえ方が大切であることを意識させるために、「ちる

さくら海あをければ海へちる」という俳句の大意を比較させた。例示した大意は、次の二文である。

・桜の花びらが散っている。海が青いので海に向かつて散っている。  
 ・潮の香に誘われて、海を見ようと高台に登った。その高台には一本の桜の木がある。桜の白い花びらが風に乗って青い海に散っている。海の青と花びらの白が対照的で、とてもきれいだ。花びらは海が青いので海へ向かつて散っているのだろうか。

その後、俳句「万緑の中や吾子の菌生え初むる」の大意を書かせるために、まず韻文の省略された部分を補うためのブレンストーミングをさせた。その際、作者が感じたであろう五感の感覚を想起させるための五感シートを準備した。次に、キーワードになる言葉に印を付けさせた。ここでは、ブレンストー

ミングで出た言葉をキーワードとさせた。その際、必ず句中の言葉がキーワードになることを理解させるために、五感シートのキーワードに印を付けさせた。情景が目浮かぶような大意を書くためには、イメージを広げる語句が必要である。そのために、五感シートに重要と思われる語に印を付けさせ、キーワードとさせた。「資料①」は、この時に使用した五感シートとキーワードである。さらに、大意を書かせ、発表させた。U女は、「昼下がり、一面の緑の中、とある親子がいました。



資料① U女の五感シート

親は我が子のはえつつある小さな歯をほほえましそうにながめていて、子どもの方は草のそよぐ音を子守歌にして足にあたる草をくすぐったがりながらも親のぬくもりに身をまかせて幸せそうにお昼寝をしていました。」という内容のものである。U女は五感シートに「一面の緑」「我が子(赤ん坊)」「我が子の歯」「草がそよぐ音」「緑の青くさいにおい」「いい空気の味」「我が子の温かみ」をキーワードとしていたのだが、キーワードを全て組み合わせたわけではない。書いている途中で、味覚である「いい空気のおい」や嗅覚の「緑の青くさいにおい」というキーワードは使用せずに大意を書いている。授業後にこのことを尋ねたところ、味覚と嗅覚を表す語を大意に入れると、大意が書けなくなると話していた。しかし、作者が感じたであろうことを想像し、五感シートに記入することで、イメージを広げることができたと話していた。このことから、五感シートを活用させたことで、イメージを広げることができ、大意を書きやすくさせたことがわかる。

#### 四 本時の成果と課題

本時の授業で大意をほとんどの生徒が書くことができた。しかし、大意を書くことができないであろうと想定した生徒には、ヒント

カードを準備していたが、大意を書くまでには至らなかった。ヒントカードの改良が課題として残っている。また、大意を書くことができた生徒の作品を読むと、場所や状況についての記述はできているが、色の対比について書いている生徒は一七名、作者の心情について書いている生徒は七名であった。作者の心情の記述にまで至っていないのは、大意の例文の中に作者の心情の記述がなかったことが原因と思われる。このことから、大意の例文を考えていかなければならないと感じた。

#### 五 おわりに

韻文を教材とし、生徒に表現を味わわせるとともに、豊かな文章表現力を身に付けることをねらいとした単元としたが、まだ課題は多く残っている。今後、生徒に表現力を身に付けさせるために研鑽を重ねたいと思う。

はぎお てつこ 春日市立春日西中学校指導教諭。「パフォーマンス評価」(雑誌「指導と評価」)、「思考力・表現力を育てる国語科学学習指導」(「パフォーマンス評価」田中耕治編著)の執筆。平成二三年度文部科学大臣優秀教員表彰。